愛は南から

愛南町の持つ魅力をご紹介しています。皆様からの掲載依頼など、気軽に情報をお寄せください。

5/10

古式ゆかしく！新嘗祭 献穀お田植え式

御荘和口地区で、愛南町では12年振りとなる「新嘗祭献穀お田植え式」が行われました。新嘗祭は、全国から奉献された新穀を、天皇が神々に供えてその年の収穫を感謝する宮中行事で、毎年11月23日に行われます。

「お田植え式」では、同地区の若宮神社境内で神事が行われた後、早乙女5名が、神社に隣接する献穀田に苗を丁寧に植えていきました。

今回、献穀者に選ばれた和家重富（しげとみ）さん（御荘和口）は、「県の代表として選ばれたのはとても光栄です。頑張っていい米を作ります」と挨拶しました。

消防本部防災対策課から

東日本大震災に伴う 愛南町からの支援物資について

今回の大震災にあたり、愛南町から愛媛県が支援する被災地(宮城県)へ支援物資を発送しました。愛南町が保管している備蓄物資の約半数を3月15日に、4tトラック1台分発送しました。支援物資は、災害用毛布、簡易トイレ、紙おむつ(乳児用・大人用)、アルファ米、缶詰、乾パン、保存水、調整粉乳、生理用品などです。

また、愛南町内の皆様からの救援物資は、3月19日から4月8日までに160件、2tトラック5台分を受付し、愛媛県を通じて発送しました。支援物資は、保存食(カップ麺・缶詰など)、シャンプー、石鹸、洗剤、使い捨て食器、飲料水(ペットボトル)、粉ミルク、生理用品、紙おむつ(乳児用・高齢者用)、乾電池、使い捨てカイロ、マスク、ボックスティッシュ、トイレットペーパーなどです。ご協力ありがとうございました。

編集後記

5月は、船越・僧都小学校の児童たちによる田植え体験、柏地区の風物詩「お田植え祭り」、12年ぶりの「新嘗祭献穀お田植え式」と田植えに関する取材が多くあり、やはり日本は稲作文化の国だと改めて感じました。

稲のDNA解析を使った最近の研究では、稲作（水稲）は朝鮮半島経由ではなく、約2500年前に中国揚子江流域から直接伝来してきたという説が有力になっています。

時に大陸では春秋戦国時代、戦乱を避けて多くの人々が、稲を携えて日本に渡ってきたのでしょう。東シナ海の荒波を命がけで渡ってきた先祖の労苦が偲ばれます。以降、豊かな自然の中で稲作を中心とした独自の文化を、私たち日本人は長い年月をかけて育んできました。

今回の震災では、東北地方の海岸沿いの多くの田畑は津波で壊滅し、塩害のため耕作ができるには数年かかるとも言われています。しかし過去何度も襲う災害に打ち勝ち、稲作文化を育んできたのですから、今回も必ずや復活し、日本の原風景である美しい水田風景を取り戻すことができるものと信じます。被災地のいち早い復興を願います。

愛南町の人口

平成23年5月1日現在

世帯数	10,908戸
人口	25,027人
男	11,716人
女	13,311人

■編集・発行
愛南町役場 総務課
〒798-4196愛媛県南宇和郡愛南町城辺甲2420番地
TEL(0895)72-1211FAX(0895)72-1214
HP http://www.town.ainan.ehime.jp/
■印刷
明星印刷工業株式会社